

芸 術

『バードカービング展に
森義 敦子さんが出品』



九月十四日から十九日まで、地下鉄伏見駅近くの電気文化会館で「バードカービング展」が開催され、当教会のカタリナ森義敦子さんが見事な作品を出品されました。バードカービングは鴨などの狩猟をするとき、囀として鳥に似せたものを水に浮かべたものが始まりと言われています。作品を見ますと、今にも飛び出すのではないかと思うほど、リアルに彫刻、彩色されています。剥製とは違って色が落ちませんし、触ることも出来ませんので、教材として相応しいだけでなく、芸術品としても鑑賞できるものです。森義さんは「アカゲラ」ともう一点「ルリカケス」を出品されていましたが、羽毛一本一本まで刻まれ、その細かい丁寧な仕上がりに驚きました。長い間、点字を打つボランティア活動をされているからこそこの作品で、これからも、お元気に活躍されることをお祈りいたします。

最近、熊野古道が巡礼の道として脚光を浴びているが、スペインにも、サンチャゴ巡礼の道がある。千年近くも前からヨーロッパ各地より、聖ヤコブの遺骨が奉られているサンチャゴ・デ・コンポステラを目指して多くの人が歩いてきた。また、イエズス会の創立者であるイグナチオ・ロヨラ、フランシスコ・ザビエルのゆかりの地でもあるため、日本から巡礼に行く方も、近年多くなっている。数年前、当教会の飯田先生も巡礼をされたので、その思い出を綴っていた。

『巡礼の思い出』

〜復活祭を
サンチャゴ・デ・コンポステラで〜

ヨゼフ 飯田 隆

イエズス会のトマス・エセイサバレン神父様と同行者十名で出発する。

バルセロナの聖ファミリヤ教会・モンセラートの山頂にそびえるベネディクト派修道院の「黒いマリヤ像」を拝観、フランシスコ・ザビエル城の見学、イグナチオ・ロヨラ城内の礼拝堂での旅行初ミサにあずかり、バンブローナへ。

次の朝、パリからの三つの巡礼

路合流点であるプエンテラレーナへ、かの有名なマヨール女王が巡礼者のために架けた橋を渡り、いよいよ巡礼が始まる。バス路は真っ直ぐなのに比べ、十二世紀以来の道は、丘を越え、野をうねうねと、細く長く続いているのが、車窓より見える。大きなリュックを背に、先端に帆立貝をつけた、二メートル程の杖を手に、歩く若者の姿を時折見かける。

道の要所には帆立貝の案内板が立てられ、古い小さな教会、修道院がひっそりと点在し、約八百里行程の徒歩巡礼者の宿泊・救護所として現在も利用されているそうだ。

カステイヤー地方の古都ブルゴスのカテドラルを訪問し、プロミスタ・サアゲンを経て、レオンに到着。レオンでは聖金曜日の典礼に参加し、夕方からはカテドラル前広場で、十字架の道行き行列を見学する。

教区毎に色とりどりの服装の集団が、道行きの各場面を現した大きな御輿や、十字架を担ぎ出発、